

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

第10期後期 開講講座

10月31日(土) 午後1時～

民主党政権下、労働者人民はどう闘うべきか

—— 状況論集『“改革”幻想との対決』を上梓して

講師＝**武井昭夫**（評論家）／聞き手＝**広野省三**（編集者）

11月8日(日) ロシア十月社会主義革命92周年記念の集い
ソ連映画『道中の点検』をみて考える

解説＝**立野正裕**（明治大学教授）

◆主催者あいさつ／たたかう仲間からのアピール、ほか
会場＝東京・文京区民センター（14時～）

1. 憲法を活かし、壊憲手続法(国民投票法)施行を許さないために

総選挙での民主党圧勝をうけ、護憲運動のなかにも「改憲情勢は遠のいた」、したがって「壊憲手続法（国民投票法）施行（2010年5月18日）を許さないたたかいは、当面する最重要課題ではない」という考えが散見される。しかし、支配階級によるさまざまな改憲策動は、いままもなく進められている。戦争放棄、基本的人権の尊重、国民主権という憲法の三大原則をくりかえし学習することによって、壊憲阻止の統一戦線づくりに貢献したい。

①**11月21日(土) 象徴天皇制の実際と憲法前文**

—— 天皇在位20周年と国民イデオロギー支配

講師＝**西川重則**（平和遺族会全国連絡会代表）

②**12月19日(土) 憲法9条と自衛隊**

—— 『法服の枷』をみて考える

長沼ナイキ裁判の福島裁判長のたたかいとその後などを描くドキュメント

講師＝**内田雅敏**（弁護士）

③**1月23日(土) 憲法が定める労働者の権利**

—— 格差・貧困社会の出現と憲法25条、27条、28条

講師＝**加藤晋介**（弁護士）

④**3月3日(水) 政権交代と憲法改正問題**

—— 憲法改正手続法をそのまま施行するのか

講師＝**水島朝穂**（早稲田大学教授）

2. 労働運動の階級的再生を！

国際金融資本・多国籍企業は、「100年に一度の危機だ！」と全世界で危機をあおりつつ、自分たちの生き残りのために、湯水のように税金を使っている。一方、欧米では失業率が10%突破間近、米国のデトロイトではなんと25%！日本でも5.7%と統計史上最悪の記録を突破した。連合は、自分たちが支持している民主党が政権をとったから、政策参加で労働者の要求が実現できるというが、それは、労働者階級のたたかいを資本主義の枠のなかに押し込める、資本主義の危機の究極の乗り切り策としての労資協調体制がつけられた、ということもできる。階級的労働組合運動の再生は急務だ。

①**11月18日(水) 吹き荒れる活動家・労働組合パージ**

—— 「ヤミ専従」問題の現場から運動を考える

講師＝**新田 進**（国際労働運動研究、小川町シネクラブ）

現場からの報告＝**木村良二**（全農林労働組合分会役員）

②**1月13日(水) 反貧困問題と労働組合運動**

—— ひろがりはじめた非正規労働者のたたかい

講師＝**河添 誠**（首都圏青年ユニオン）

③**2月13日(土) 正規と非正規の壁をどう打ち破るか**

—— 民営化でゆれている郵政労働の現場から

座談会＝**池田 実**（郵政4・28事件勝利原告）／**野田光太郎**（ゆうメイト）／**丸山小次郎**（ゆうメイト）

司 会＝**土田宏樹**（J P労組）

④**3月31日(水) 国鉄・解雇撤回闘争の意義**

講師＝**二瓶久勝**（国鉄闘争共闘会議議長）

3. 恐慌下、女性労働者はいま

完全失業率5.7%、過去最悪といわれる状況のもと、女性の非正規労働者は、女性労働者の54%を占めるに至った。常になっ先に劣悪・苛酷な条件を強いられる女性労働者の現実に取り、たたかいの方向を探りたい。

①**12月16日(水) 恐慌下の女性労働の実態とたたかい**

講師＝**鴨 桃代**（全国ユニオン委員長）

②**1月27日(水) 新自由主義改革下の教育現場**

講師＝**西中幸子**（日教組中央執行委員）

③**3月6日(土) 3・8国際婦人デー集会**

4. 起ち上がる世界人民

恐慌期は階級矛盾がもっとも激化する。同時に、労働者・人民を体制内に包摂しようとする支配階級のイデオロギー攻勢が強まる。韓国、中南米、そして共産党・労働者党国際会議（2009年11月、インド）の報告をつづじて、「水に落ちた資本家を救うな！」と、社会主義を展望して起ち上がる世界人民の実態を知り、鳩山・民主党政権下での日本人民のたたかいの進路を探る。

①**12月5日(土) 資本主義の危機の現段階**

—— 韓国におけるその現実と、労働者階級のたたかい

講師＝**チェ・マンズ**（韓国・労働社会科学研究所代表）〈交渉中〉

②**1月16日(土) 激動する中南米のたたかい**

—— 革命の前進、そして反革命の暗躍

講師＝**富山栄子**（国際交流平和フォーラム代表）

③**2月24日(水) 共産党・労働者党国際会議(インド・ケララ州)**

—— 再生をめざす共産主義運動の国際潮流

講師＝**新田 進**（国際労働運動研究）

5. 20世紀社会主義総括の視点

第二次世界大戦開戦70周年の今年、「全体主義」の名のもとにナチズムとソ連を同列視し、ファシズム打倒に果たしたソ連の役割を否定するプロパガンダが吹き荒れた。「20世紀社会主義に対する態度の問題」は、歴史認識の基本問題であると同時に、社会変革を志す者にとって避けて通ることのできない試金石である。ギリシャ共産党の見解を手がかりにこの問題を考える本シリーズは、ソ連現代史を専攻する木村英亮教授に皮切りの発言をお願いした。

①**1月9日(土) 旧ソ連の歴史をどう見るか**

—— こんにちにおけるネップの意味

『20世紀の世界史』（木村英亮著）を参考に

講 師＝**木村英亮**（横浜国立大学名誉教授）

聞き手＝**山下勇男**（社会主義理論研究）

②**2月10日(水) 『ギリシャ共産党の捉える現代社会』(1)**

（出版準備中の文献集）**を手がかりに**

講 師＝**山下勇男**（社会主義理論研究）

③**3月10日(水) 『ギリシャ共産党の捉える現代社会』(2)**

（出版準備中の文献集）**を手がかりに**

講 師＝**山下勇男**（社会主義理論研究）

6. 裁判員制度と報道を考える

講師＝**山口正紀**（ジャーナリスト／人権と報道・連絡会世話人）

①**11月11日(水) 裁判員裁判の問題点**

—— 被告人の権利を侵害し、被害者感情に流される裁判

裁判員裁判には、「公判前争点整理」「被害者参加」が大きな影響をもたらしている。「裁判員の負担軽減」を理由にした公判日程の短縮で被告人の反論機会が狭められ、その一方で被害者感情が法廷を支配し、裁判員の判断が左右される。裁判員裁判は、「無実の発見」という市民参加の本来の目的をないがしろにし、「重罰化」の道具になっているのではないか。

②**12月9日(水) 裁判報道はどうあるべきか**

—— 裁判員制度の問題点を伝えないメディア

メディアは裁判員裁判をどう伝えているか。公判に即して公判前争点整理や被害者参加制度など、被告人の権利侵害に言及する報道は見当たらない。判決に弁護側の主張にふれない一方的な事実認定があっても、メディアはそれを指摘せず、守秘義務に縛られて裁判員の記者会見でも質問もしない。また、裁判報道に被告人の実名は必要なのか。逮捕報道も含め、裁判員裁判と報道の問題点を考える。

7. 日本の短編小説を読む

講師＝**立野正裕**（明治大学教授、英文学）

ここに取り上げる四作品は、いずれも夢または悪夢の種々相を描き出している。そこに立ち込める希望と絶望、歓喜と戦慄とは、われわれの日常的現実とけっして無縁のものではない。物語が描き出す夢も悪夢も、現実そのものと分かちがたく、複合的な関係をなしている。今期はその観点から四編の秀作をじっくりと精読してみよう。（PM7:00～9:15）

①**11月24日(火) 夏目漱石作『夢十夜』**（岩波文庫）

百年たったら戻って来ますと言ひ残して逝ってしまった女、おまえがおいらを殺したのは確かここだったねと背中におぶったわが子に言い当てられる男……。夢と悪夢を淡々と語った十編の小品には、漱石文学のすべてが圧縮されている。

②**12月22日(火) 中島 敦作『山月記』**（新潮文庫）

姿が変じて虎になった男は、かつて詩人として後世に名を残すことを夢見ていた。しかし一匹の猛獣を心のうちに飼っていた。中国の人虎伝に材を取り、詩人として生きようとした人間の痛切な宿命を描きながら、作者はそこに近代人の運命というより切実な寓意を込めた。

③**1月19日(火) 宮沢賢治作『注文の多い料理店』**（岩波文庫）

町からやって来た二人のハンターが山の奥で素敵なレストランを見つける。メニューの豊富さが彼らを感じさせる。さっそくテーブルにつこうとする。実際、なんと注文の多いことよ……。一見素朴な民話ふうのファンタジーだが、じつは読者の意表を衝くモダニズムの発想があり、読む者の笑いを一瞬凍りつかせる。

④**3月23日(火) 松本清張作『或る「小倉日記」伝』**（新潮文庫）

ハンディを負う身ながら、小倉在住時代の隅外の矢われた日記を復元しようとする青年。情熱と忍耐、希望と悲哀のうちに燃え尽きたその短い生涯を描く本編は、清張文学における「探求」や「搜索」のテーマを先取りし、人間にとってなにが生きがいとなるかを問いかけている。

8. HOWS美術館

①**11月15日(日) 美術館訪問「ロシアの夢」を観て考える**

（埼玉県立近代美術館10月10日～12月6日）

講師＝**金山明子**（画家）／**金山政紀**（画家）

②**11月28日(土) 日本漫画史を語る**

—— 四コマ漫画を中心に

講師＝**清水 勲**（日本漫画資料館主宰、帝京平成大学教授）

③**3月27日(土) 抵抗の美術家たち**

—— 近世・在野のこころ意気

講師＝**日夏露彦**（美術評論家）

9. この人に聞く

①**11月4日(水) 企業スポーツ界をおそうリストラ攻撃**

講師＝**谷口源太郎**（スポーツジャーナリスト）

②**12月2日(水) 朝鮮はいま —— 最新現地取材報告**

講師＝**朝鮮新報社** 記者

③**12月12日(土) 戦場の宮古島と「慰安婦」**

講師＝**中原道子**（早稲田大学名誉教授）

④**1月30日(土) 民主党の原発政策と環境問題**

講師＝**槌田 敦**（核開発に反対する会代表・物理学者）
〈上演予定〉群読「憲法と原発 —— 目を覚ませ！未来の世代のために」

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝**武井昭夫**、**山口直孝**、**松岡慶一**

戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、竹内好の「アジア主義」批判、湯地朝雄「プロレタリア文学運動 その理想と現実」、戸坂潤「世界の一環としての日本」（1937年）、田川建三の吉本隆明批判、尾崎秀実の「東亜協同体論」、などを取り上げました。

2009年度後期（09年11月～10年4月）は、第一次政治と文学論争（中野重治vs平野謙・荒正人）／小林多喜二『党生活者』／花田清輝vs吉本隆明論争／花田清輝の戦中の仕事／花田清輝の「近代の超克」、などを取り上げる予定です。奮ってご参加ください。

②群読ゼミ

世話役＝**小松厚子**

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものが参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文芸、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日は協議のうえ、決定します。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 戦争を止めよう！Ⅱ
- いま、私たちの労働現場から Ⅱ
- 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改悪は誰のため？
- 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 共闘こそ力！—— 壊憲を許さな
- 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
- 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために

●HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらずなく、どなたでも参加できます。

<p>HOWS講座カレンダー 2009年度後期（10月～3月）</p> <p>10月31日(土) 民主党政権下、労働者人民はどう闘うべきか 講 師＝武井昭夫（評論家）／聞き手＝広野省三（編集者）</p> <p>11月4日(水) 企業スポーツ界をおそうリストラ攻撃 講師＝谷口源太郎（スポーツジャーナリスト）</p> <p>11月8日（日）ロシア十月社会主義革命記念集会 ソ連映画『道中の点検』をみて考える 立野正裕（明治大学教授） 主催者あいさつ／たたかう仲間からのアピールほか</p> <p>11月11日(水) 裁判員裁判の問題点 講師＝山口正紀（ジャーナリスト／人権と報道・連絡会世話人）</p> <p>11月15日(日) 美術館訪問「ロシアの夢」を観て考える 講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）</p> <p>11月18日(水) 吹き荒れる活動家・労働組合パージ 講師＝新田 進（国際労働運動研究、小川町シネクラブ） 現場からの報告＝木村良二（全農林労働組合分会役員）</p> <p>11月21日(土) 象徴天皇制の実際と憲法前文 講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）</p> <p>11月24日(火) 日本の短編小説を読む 夏目漱石作『夢十夜』 講師＝立野正裕（明治大学教授、英文学）</p> <p>11月28日(土) 日本漫画史を語る——四コマ漫画を中心に 講師＝清水 勲（日本漫画資料館主宰、帝京平成大学教授）</p> <p>12月2日(水) 朝鮮はいま——最新現地取材報告 講師＝朝鮮新報社 記者</p> <p>12月5日(土) 資本主義の危機——韓国における現実とたたかい 講師＝チェ・マンズ（韓国・労働社会科学研究所代表） 〈交渉中〉</p> <p>12月9日(水) 裁判報道はどうあるべきか 講師＝山口正紀（ジャーナリスト／人権と報道・連絡会世話人）</p> <p>12月12日(土) 戦場の宮古島と「慰安婦」 講師＝中原道子（早稲田大学名誉教授）</p> <p>12月16日(水) 恐慌下の女性労働の実態とたたかい 講師＝鴨 桃代（全国ユニオン委員長）</p> <p>12月19日(土) 憲法9条と自衛隊——『法服の枷』をみて考える 講師＝内田雅敏（弁護士）</p> <p>12月22日(火) 日本の短編小説を読む 中島 敦作『山月記』 講師＝立野正裕（明治大学教授、英文学）</p> <p>1月9日(土) 旧ソ連の歴史をどう見るか——こんにちにおけるネップの意味 講師＝木村英亮（横浜国立大学名誉教授）／聞き手＝山下勇男（社会主義理論研究）</p> <p>1月13日(水) 反貧困問題と労働組合運動 講師＝河添 誠（首都圏青年ユニオン）</p> <p>1月16日(土) 激動する中南米のたたかい——革命の前進、そして反革命の暗躍 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）</p> <p>1月19日(火) 日本の短編小説を読む 宮沢賢治作『注文の多い料理店』 講師＝立野正裕（明治大学教授、英文学）</p> <p>1月23日(土) 労働者の権利と憲法25条、27条、28条 講師＝加藤晋介（弁護士）</p> <p>1月27日(水) 新自由主義改革下の教育現場 講師＝西中幸子（日教組中央執行委員）</p> <p>1月30日(土) 民主党の原発政策と環境問題 講師＝槌田 敦（核開発に反対する会代表・物理学者） 〈上演予定〉群読「憲法と原発 —— 目を覚ませ！未来の世代のために」</p> <p>2月10日(水) 『ギリシャ共産党の捉える現代社会』を手がかりに (1) 講 師＝山下勇男（社会主義理論研究）</p> <p>2月13日(土) 正規と非正規の壁をどう打ち破るか——郵政労働の現場から 座談会＝池田 実（郵政4・28事件勝利原告）／野田光太郎（ゆうメイト）／丸山小次郎（ゆうメイト）／司会＝土田宏樹（J P労組）</p> <p>2月24日(水) 共産党・労働者党国際会議（インド・ケララ州）の成果 講師＝新田 進（国際労働運動研究）</p> <p>3月3日(水) 政権交代と憲法改正問題——憲法改正手続法をそのまま施行するのか 講師＝水島朝穂（早稲田大学教授）</p> <p>3月6日(土) 3・8国際婦人デー集会</p> <p>3月10日(水) 『ギリシャ共産党の捉える現代社会』を手がかりに (2) 講 師＝山下勇男（社会主義理論研究）</p> <p>3月23日(火) 日本の短編小説を読む 松本清張作『或る「小倉日記」伝』 講師＝立野正裕（明治大学教授、英文学）</p> <p>3月27日(土) 抵抗の美術家たち——近世・在野のこころ意気 講師＝日夏露彦（美術評論家）</p> <p>3月31日(水) 国鉄・解雇撤回闘争の現局面 講師＝二瓶久勝（国鉄闘争共闘会議議長）</p>
